

SEED (シード)

Vol.028
2025.3月

3月15日（土）、令和6年度「駒大生社会連携プロジェクト」の活動報告会を対面形式で開催しました。今号では活動報告会の模様と、今年度の全採択プロジェクトによる最終報告をお届けします。

令和6年度 駒大生社会連携プロジェクト 活動報告会

日時 2025年3月15日（土）13:00～15:00
会場 駒沢キャンパス 種月館（3号館）3-307教場

次第

挨拶 松信 ひろみ 駒澤大学 学長補佐・学術研究推進部長
報告 採択プロジェクト5団体
審査員講評 外部審査員4名
総評 吉田 尚史 駒澤大学 副学長・社会連携委員会委員長



発表者の皆さま、ご来場いただいた皆さま、ありがとうございました。

各プロジェクトによる報告概要

事例報告（産学官連携部門）

大学生による埋蔵文化財活用事業の
実践モデルの構築

文学部 歴史学科
藤野 一之先生 主担当

2025(令和7)年3月15日(土) 社会連携プロジェクト 活動報告会

【産学官連携部門】
大学生による埋蔵文化財
活用事業の実践モデルの構築

担当教員 藤野一之
参加学生 飯塚双穂、井田樹希、田中優作、趙亦寧、福田有希



事例報告（産学官連携部門）

ANA創業者美土路昌一の経営理念の
研究

経営学部 市場戦略学科
小野瀬 拓先生 主担当

令和6年度
駒大生社会連携プロジェクト 活動報告会

ANA創業者美土路昌一の経営理念の研究

2025年3月15日
駒澤大学経営学部
小野瀬ゼミナール



事例報告（SDGs部門）

サステナブル・アクション・
プロジェクト（SAP）～SDGsへの
行動変容とその広報活動による駒澤大学
のサステナブル・ブランドの向上

経営学部 市場戦略学科
青木 茂樹先生 主担当

SAP(Sustainable Action Project)
成果報告書



駒大生社会連携プロジェクト活動報告会
2025年3月15日
主担当教員 経営学部 青木茂樹



事例報告（SDGs部門）

持続可能な放射線リテラシー教育：
自作教材を通じた教育連携の拡大と
普及

医療健康科学部 診療放射線技術科学科
村田 渉先生 主担当



駒大生社会連携プロジェクト SDGs部門
医療健康科学部 村田渉講師

持続可能な放射線リテラシー教育
自作教材を通じた教育連携の拡大と普及

発表代表者 工藤理恵 穂原朱希 菊池祥紅菜



事例報告（SDGs部門）

障がい者の雇用に関する研究

経営学部 経営学科
村山 元理先生 主担当

障がい者の雇用に関する研究

令和6年度 駒大生社会連携プロジェクト 活動報告会
2025年3月15日

駒澤大学経営学部 村山ゼミナール 3年
城野賢司、葛山知輝、遠藤朱莉、相田胡桃、牛山瑛太、渡邊翔太、上野温正、
牧涼乃、三崎虎太郎、佐藤風、阿部心美、細野壮平、高橋明詩、湯淺結平、
石井真生、中山敬太、有賀大樹、塩田碧之、森脇琢斗、岩野有汰、安井竜輝



活動報告会 フォトギャラリー



←松信 ひろみ学術研究推進部長による開会挨拶



外部審査員による講評 ↑



吉田 尚史社会連携委員会委員長による総評 ↑



↑ オープンキャンパスと同日開催



交流の部における学生代表による質疑応答 ↑

会場全体の様子 ↓

小野瀬先生主担当プロジェクトによるインフォグラフィックス ↓



【産学官連携部門】文学部 藤野 一之先生プロジェクト活動報告

プロジェクトの振り返りを行いました。
正課や課題点などについて、活動報告会で発表します。

今年度行ったプロジェクトの振り返りを行いました。プロジェクトの内容を振り返るとともに、3回にわたる出土品調査やリーフレット作成、10月5日の講演会など様々行った活動で得られた感想や成長できた点を共有しました。また、10月5日の講演会で参加者から回答いただいたアンケートを集計しました。アンケートでは、「大学生が自治体と連携し講演会を行うことは、新しくて感激しました」、「今後も展示や講演を通じて調査成果を公表してほしい」など、好意的な評価が多く見られました。これを踏まえて、大学生が地域と連携して文化財の普及活動を行う意義や課題点などについても議論しました。この振り返りで出された成果や課題点などは、3月の報告会で発表できるよう、準備を進めていきます。

【産学官連携部門】経営学部 小野瀬 拓先生プロジェクト活動報告

「ANA創業者 美土路昌一の経営理念の研究」を
インフォグラフィックスの技術で分かり易く伝えました。

小野瀬ゼミでは、2024（令和6）年度より、学生研究展示企画「ANA創業者 美土路昌一の経営理念の研究」に取り組みました。研究にあたり、大木由美子先生やANAホールディングス株式会社秘書部担当部長の辻村貴之氏をお招きし、お話を伺いました。

7月には学生らがANAの訓練施設「ANA Blue Base」を訪問。訓練設備や貴重な歴史資料を見学し、空の安全について理解を深めました。

その後、学生らは学んだ内容がわかりやすく伝わるようインフォグラフィックスの制作に注力し、完成した作品は夏のオープンキャンパスで展示されました。多くの来場者から好評を受け、種月館（3号館）の展示期間は同年8月まで延長。さらに12月にはANA Blue Base Innovation Garageでも展示されました。

当プロジェクトを通じて、美土路氏について多くの方々にお伝えできたことは、学生一同にとって貴重な経験となりました。

ご覧いただいた皆様、またご協力いただいたすべての方々に心より感謝申し上げます。



【SDGs部門】経営学部 青木 茂樹先生プロジェクト活動報告

前期は6つの多様なプロジェクトを推進し、大規模なイベントを開催しました。後期は学内に古紙回収ボックスを設置する等、実践的な取組みを継続しています。

駒澤大学経営学部の青木・武谷ゼミでは、「サステナブル・アクション・プロジェクト（SAP）～SDGsへの行動変容その広報活動による駒澤大学のサステナブル・ブランドの向上」にて学内公募型の助成を受け、さまざまな取組みを行いました。

1年間の活動として前期はフードロス、フリーマーケット、ゼロ・ウェイスト、サステナブル・マインド、ダイバーシティ、広報といった6つの班に分かれ、それぞれ社会連携や地域貢献に関わるプロジェクトを行いました。ゲストをお呼びした校内での大きなイベントや熱海の地域資源をいかした活性化の視察など幅広く活動を行うことが出来ました。



駒澤キャンパス種月館で開催したフリーマーケット



熱海の地域資源をいかした活性化について現地視察

後期は前期で行ったゼロ・ウェイスト班の古紙回収を引き継ぎ、駒澤大学構内に古紙回収ボックスを設置しました。また立命館大学と大阪公立大学を訪問し、私たちが主に行っているサステナブルやSDGs関連の活動について見学し、お話を聞くことが出来ました。



立命館大学におけるインタビュー調査

今年度はテスト的に様々な社会実証や実態調査に挑戦しましたが、今後は学内のみならず学外と連携し、社会的にインパクトのあるプロジェクトを具体的に検討していきたいと思えます。

最後にこのプロジェクトにご協力頂いた皆様に心から感謝申し上げます。

【SDGs部門】医療健康科学学部 村田 渉先生プロジェクト活動報告

1年間で15企画・26回の活動を実施しました。

ご参加・ご協力いただいた皆様に、心より感謝申し上げます。

本プロジェクトでは、自作教材を活用した放射線リテラシー教育の普及と連携拡大を目的に、1年間で15企画・26回の活動を実施しました。活動内容は多岐にわたり、協力校との連携企画に加え、環境省や世田谷区との協力企画を通じた国・地域との連携強化、タイ・Rangsit大学との交流による国際的な広がり、放射線関連学協会での発表を通じた学術的な発信、さらに新たな放射線教育教材の開発とコンテストへのエントリーなど、幅広い取り組みを行いました。

各イベントでは、参加者に放射線の正しい知識を学んでいただくと同時に、高い興味・関心を得ることができました。また、私たち自身にとっても、放射線についての理解を深める貴重な機会となりました。

さらに、放射線教材コンテストでは最優秀賞、放射線教育学会では優秀研究発表賞を受賞するなど、大きな成果を上げることができました。本プロジェクトにご参加・ご協力いただいた皆様に、心より感謝申し上げます。



【SDGs部門】経営学部 村山 元理先生プロジェクト活動報告

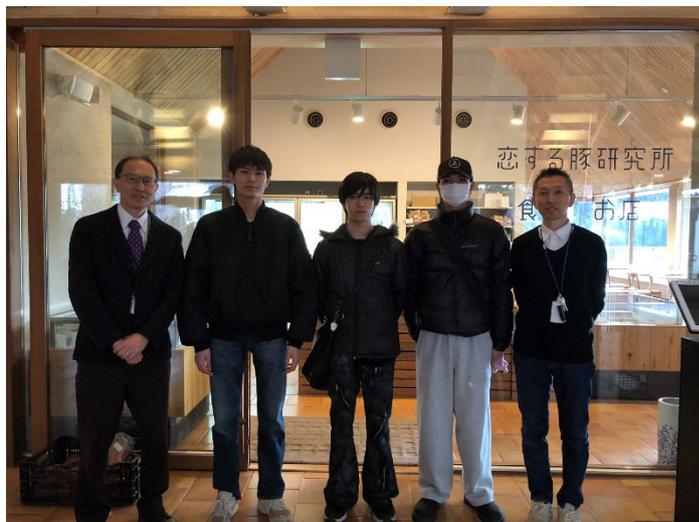
活動期間終了後も引き続き障がい者雇用に関する研究を継続しています。
新たな研究課題を発見し、海外の文献の翻訳も行いました。

障害者雇用を進めている多くの団体、企業、支援者がいることが分かった。障害者に関連する多くの法律があり、法定雇用率（2024年は2.5%）が高まる中で企業の主体的な対応が必ずしも十分でないことが分かった。

ヤマト福祉財団が顕彰している小倉昌男賞をうけた、株式会社恋する豚研究所（社会福祉法人福祉楽団の事業、A型事業所のレストラン）と同所にある栗源第一薪炭供給所（B型事業所）を2月17日に参観し、山根正敬様からも詳しく解説していただき、障がい者雇用の可能性を強く学ぶことができた。



農福連携については新しい動きがあり、研究課題が残された。海外でもダイバーシティー経営、SDGsやESGの課題であるインクルージョンの課題としてILOから報告書『Putting the I in ESG: Inclusion of Persons with Disabilities as Strategic Advantage of Sustainability Practices for Corporates and Investors』が出ていることがわかり、全員で事例紹介の部分を翻訳した。



駒澤大学の社会連携に関する最新情報は、
社会連携センターのホームページでご案内しております。 → [社会連携センター「お知らせ」](#)
今年度の駒大生社会連携プロジェクトについては、[令和6年度「駒大生社会連携プロジェクト」](#)を
ご覧ください。